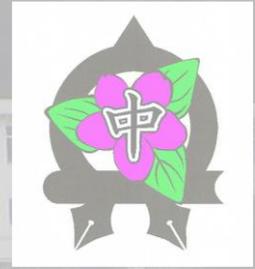


協働

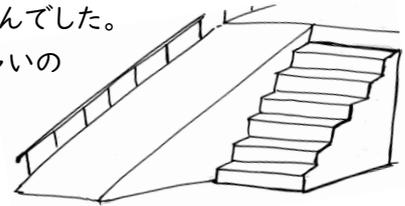


未来を作るユニバーサルデザイン

校長 原 善 哉

皆さんは「バリアフリー」と「ユニバーサルデザイン」という言葉とその違いについて、ご存じでしょうか。私は恥ずかしながら、かなり最近まで明確な違いを知りませんでした。日本には、どちらもほぼ同時期に伝わったので、同じ意味ととらえている人が多いのだそうですが、この二つには、大きな違いがあります。

右のイラストの階段とスロープは、どちらにあたるでしょうか。



バリアフリーとは、障がいのある方やお年寄りにとっての、社会における障壁(バリア)を取り除き、安心して暮らせる社会を実現する考え方です。またユニバーサルデザインとは、年齢や障がいの有無、国籍、性別などの違いを問わず、誰もが利用しやすいような社会をデザインする考え方です。それぞれの意味を考えると、スロープはどちらにも当てはまる施設です。しかし元々あった階段を半分壊して、そこにスロープを作ったのならばバリアフリーであり、設計の段階から、階段とスロープを作ったのならユニバーサルデザインと言うことができるでしょう。スロープは、障がいのある方や、高齢の方など、階段が登りづらい方のためだけではなく、歩き始めた小さなお子さんや、そもそも階段よりもスロープが好きという人も、きっとスロープを使うことでしょう。

バリアフリーとユニバーサルデザインの考え方は、どちらも大切ですし価値があります。しかしバリアフリーは「今までの考え方」でユニバーサルデザインは「これからの考え方」と言えるでしょう。困っている方のために何かを変えるよりも、誰もが困らずにすむデザインをしていくことは、理想的ですてきな社会です。これら二つの大きな違いとは、初めから考えるか、後から尽力するかという、私たち人間の意識の違いということになるのですね。

12/3~9日まで「障害者週間」でした。朝礼にて奥中生の皆さんにもイラストを見せながら、このお話をいたしました。夏休みの24時間テレビや障害者週間によって、私達は、知らなかったことや新たに気付くことがまだまだ、たくさんあります。しかし、何かのイベントや啓発活動によって、改めて気付かされるのではなく、特別に意識することなく自然に、また当たり前と考えられる理想の社会をみんなの力で実現していきたいのです、と伝えました。生徒達はみな真剣に聞き、大きくうなずく生徒が何人もいました。未来への可能性を強く感じる朝礼となりました。

教育のバリアフリーとして「特別支援教育」が全ての学校で実践されています。奥多摩中学校では、バリアフリーをさらにユニバーサルデザインまで高め、「全員支援教育」と名付けて取り組んでいます。通常学級、特別支援学級に関わらず、全校生徒一人一人にとって優しく、分かりやすく、生きる力を身に付けていける教育を実践します。そして生徒達と共に、「もっと通いたい奥多摩中学校」を目指します。

※本校の特別支援教育コーディネーターが発行する通信「にじいろ」にてユニバーサルデザインとバリアフリーについて詳しく紹介されていますので、右のQRコードから再度お読みください。



12月「イメージを大切にする」～なりたい自分をできるだけ具体的に思い描く～

| 生徒の実践 | 先生の実践 | 家族の実践 |
|---|--|--|
| たくさん本を読む 自分の気持ちを書いてみる 思いつきやアイデアを書き留める | 学校生活で感じたことを聞くなり なりたい自分を発表させる イメージを言葉にして表現させる | 子どもと価値観について話し合う 良い音楽や絵画に家族でふれる機会をもつ 「楽しい」「不安」などの感情からイメージできることを聞く |

出典：スポーツドクター辻秀一著「心の力コーチング～いつも勝てるライフスキルの育て方～」講談社